

守谷市教育委員会点検評価意見

点検評価員 櫻井 由美

1 教育委員会

守谷市教育委員会では、教育目標を「新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指して」と定め、様々なプランで展開しています。

また、定期的、臨時の会議の開催にとどまらず、研修、学校訪問、学校行事や市民参加の各種行事に積極的に参加し現場の状況を把握するなど、活発な活動であると感じられる。

2 学校教育・指導室事業

(1) 教育環境の整備・充実

平成 26・27・28 年度の3箇年での小中学校のトイレの改修工事、便器の洋式化と床の乾式化については、児童生徒の学校生活における快適な施設環境づくりができた。また、老朽化した校舎、施設の改修や耐震工事も予定通り進められ、安全な環境に改善されている。

平成 26 年度から各小中学校の全教員に指導者用のタブレットを配備、今年度からは全校の普通教室に電子黒板を配備し、分かりやすい授業による学習意欲と学力の向上を目指した情報教育環境の充実が図られた。

通学路については、道路の路面標示の書き直しや通学補助員配置の見直しなどの対策を行い、登下校時の安全が図られた。また、不審者などへの対策としては、引き続き地域住民の見守りボランティアの協力を得ることが必要である。

(2) 学校教育プラン

① ステップアッププラン（確かな学力の育成）

基礎的・基本的な知識・技能の育成では、各校それぞれに繰り返しの学習の工夫がなされている。学力診断テストでは全体としては良好ではあるが、個人差が見られる。

これについては、守谷市独自のプランである「学習支援ティーチャー」、少人数や TT による授業を展開し、個に応じた指導の充実が必要である。家庭においては「家庭学習のてびき」を活用し、多くの保護者の協力を得ていくことで、より良い効果が期待できる。

② ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）

基本的生活習慣の基盤となる“あいさつ”は、各学校で熱心に取り組をしている。しかし、これは家庭の中で家族と日常的にできていれば自然とできることではないか。まず、家庭の中で保護者と児童生徒が一緒に“あい

さつ”を習慣付けていくことが必要である。そして、学校の中だけでなく学校外でもできるようにしていく。これには地域の大人が子供たちに声掛けをすることが必要である。

「守谷しぐさ」には、日常生活の行動・所作について書かれている。この内容は大変素晴らしいことで実践するのは大変であるが、これがあることで日常の生活での気付きになっていると考えられる。

いじめ防止については、各学校とも力を入れて取り組んでいる。また、「MORIYA いじめ防止フォーラム」の開催は、小、中、高の児童生徒が企画、運営をしている。日常から「いじめ」をテーマに話し合うことで意識の向上につながることを期待している。

そして、いじめに遭っている子供たちの小さなサインを、大人は見逃さないようにすることも大事である。

③ ヘルス&フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）

体力づくりについては、体育の授業だけでなく、各小学校では学級で業間休みや昼休みに外遊びを奨励し、ドッジボールや一輪車で遊ぶ子供が増え、記録会に向けて縄跳びや持久走など、目標を持って運動ができるようになった。体力テストでは小学校は県の平均を少し下回ったが、継続していくことで改善が図れると期待する。

食に関する指導では、正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に着けることができるように栄養教諭を講師に招き、授業や給食訪問を行っている。

具体的には、小学校の報告ではよく分からなかったが、守谷中学校では朝食接種の調査をし、地場産物の活用と関連付けた栄養指導を社会科担当教師と TT により実施するなど地産食材の理解につながっている。

防災に関しては、各学校での避難訓練を行っているが、地域の方や保護者と一緒に町を探検して防災マップづくりをした郷州小学校の取組は良いと思う。

④ ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）

守谷市では、平成 13 年から各小中学校に ALT を配置し、外国語に触れる積極的な取組がなされている。「話せる英語」を目標にし、教育課程外の活動では中学生対象の「English in Action」を毎月第 3 土曜日に行っている。平成 27 年度のアンケートで多くの生徒が「英語が話せるようになりたい」と言っている事や英検取得状況が高いことから英語への関心が高まっていることが伺える。

守谷市は、ほぼ毎年姉妹都市から中高生が来市し、広報誌でそのホストファミリーを募っている。家庭環境によるが、可能ならばホストファミリーの経験をすることで外国の学生と交流を深めることができ、さらに英語への勉強意欲が向上すると考える。

また、守谷市国際交流協会が毎月第1土曜日に開催している「英語でおしゃべり」は、年々中高生の参加が増えている。このような学校外の催し物に参加するのも良い経験になると思う。

情報教育に関しては、各校でコンピューターを活用し工夫された授業が展開されている。しかし、教職員の能力には個人差があるため、研修等を重ねて活用のスキルを高める必要があります。

⑤ パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域の連携）

現在は授業の公開、各校のホームページでの積極的な情報公開が見られる。

また、保幼小中高一貫教育の中で中学校区ごとに特色ある教育の実践を推進している。

PTA や地域の人材の協力を得て、登下校時の見守りだけではなく、学習面でも地域のボランティアが活躍できると地域の活性化、児童生徒の学習意欲向上、職員の指導意識が高くなる。

昨今、学校が抱える課題は複雑で困難になっている。これを解決していくためには地域社会、保護者の参画を得た学校運営が求められている。

既に守谷市では、学校運営協力員が定期的に会議を開催し、地域の意見、感想を取り入れている。今後も地域の様々な機関、団体などがネットワークを図り、学校、家庭、地域が相互に協力し、学校を核として子供も大人も学び合う地域づくりを行い、いずれはコミュニティ・スクールとして推進していくことが望ましいと考える。

3 給食センター事業

学校給食は単に栄養補給にとどまらず、健康や正しい食習慣について献立表に食事のマナーなどに関する情報を掲載して食について学ぶ工夫がされている。また、献立と写真をホームページに掲載し、人気のレシピを『広報もりや』に掲載するなど家庭における食育に役立つ情報提供がなされている。

食物アレルギーを持つ児童生徒については、保護者からの給食確認票の提出を受けて学校や給食センターと情報を共有して対応し、2 献立性を活用するなど適切な対応がなされている。

4 生涯学習事業

（1）豊かな生活を目指した学習機会の提供・充実と人材バンクの活用

公民館事業では市内5 公民館が講座・教室を開設、中には終了後にサークルとして発足した教室もあり、市民の学習活動の促進に寄与している。

また、広報誌、ホームページで講座や教室の情報、サークル活動の情報を提供している。

「もりや生き生きライフリーダーバンク」を活用しての生涯学習を推進す

るために人材バンクの登録者を広報誌、ホームページで紹介しているが、活用が少ないため、利用しやすい方法の検討が望まれる。

（２）学校、家庭、地域社会の連携による教育の推進

開かれた学校づくりの推進として、市内 13 校の体育館、格技場、卓球場、グラウンドを開放している。これは市民のスポーツ・リクリエーション活動の中心的な役割を果たしている。

小学生の子ども会活動は、他の学年の子ども達とも交流ができ、集団活動のルールなどを身に付けられる場であるが、子ども会への入会が減っている。

これは保護者の都合であることが多くみられるので、保護者の理解を深めるような工夫が必要である。

（３）学習活動・芸術鑑賞の場の提供と公民館活動の推進

芸術文化の発表・鑑賞の場としては、市内で年間を通して数多く行われている。その中でも各公民館で行われる「公民館まつり」は、公民館の使用サークルの中から実行委員を選出し運営することでサークル同士の交流も深まっている。子どもから高齢者まで世代を超えた幅広い人々が集まり、大変賑わっていることから地域に密着した良い活動であると思う。

（４）健康づくりの推進とスポーツ活動の充実

健康スポーツフェスティバルや市内各種のスポーツ大会では、毎年多くの参加者が活躍している。

『守谷ハーフマラソン』は全国各地から参加があり高い評価を受けて、幅広い世代の交流と健康増進に寄与している。しかし、一般の市外参加者の定員増加を望む声があるので、大会運営などについて検討が必要である。

（５）郷土愛と文化財の保存・周知

郷土の歴史や先人の残した文化遺産を管理・保護をして市民に理解、周知を図ってもらいたい。『守谷ふるさとかるた』の存在は知っているが、中々使う機会がないので PR の方法を工夫してほしい。

（６）放課後子ども総合プランの充実と児童の安全・安心の確保

児童クラブと子ども教室の運営を一体的に民間委託したことで指導員の確保や保育現場で迅速な対応が可能になったことは良いことであり、今後も保育サービスの向上と安全を図ってほしい。

5 図書館事業

平成 28 年度は、「第二次守谷市子ども読書活動推進計画」の最終年となっ

ている。各学校で読書目標を掲げるなど児童生徒の読書習慣が身に付いてきているとみられ、各図書館での子ども達の利用も多いことから、この推進計画は継続して行くことを期待する。

＜総括＞

教育委員会全体の評価について

守谷市では、教育目標を「新しい時代をたくましく生きぬく人づくり」として取り組んでいる。今の子どもたちに一番求めたいのが、“たくましさ”だと考える。

「学びのプラン」は、小中学校 9 年間を見通した学習スキルや生活スキルを示したもので、市内全職員、全児童生徒及び保護者に配布したことで共通の認識ができる。そして、「家庭学習のてびき」は児童生徒の学習に関して学校と家庭との連携が図れ、大きな成果を上げている。

守谷市では、他に先駆けて早くから各校に ALT を配置して英語力の向上に向け積極的に取り組んでいる。子どもたちには目前に迫った 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて海外の方と積極的な交流を行うためにも「話せる英語」を目標としてほしい。

各学校の報告から、目標達成に向け様々な取組を行っていることが伺える。今後も、将来の夢に向かってはばたく人材の育成を図っていただきたい。